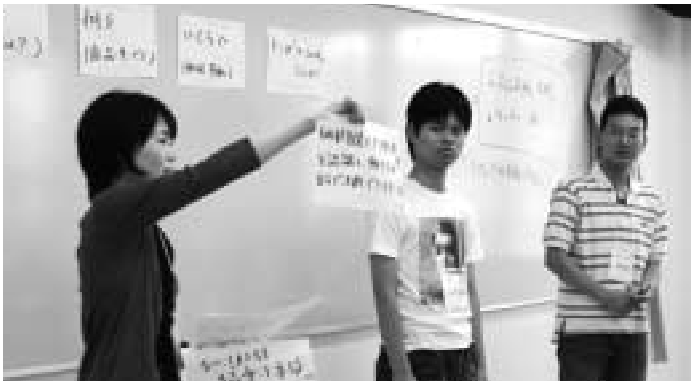
実践レポート

社会起業家をめざす若者のためのビジネスプラン・コンペティション

edge実行委員会（大阪市）

●ナビゲーター
edge実行委員会委員長
田村　太郎



edgeのコンペに提出されるプランは、ITベンチャーとは一線を画すユニークな内容のものが多い

若者に起業のチャンスを与えたい

格差が広がっていると言われているが、その背景には、今の日本では、一度チャンスを失った人間が、再び戦うリング上に上るチャンスがほとんどないという社会システムの問題があると言われている。そこで、そうした機会を生み出すことに行政が手をこまねいているのなら、民間主導で〝再チャレンジできる社会〟づくりを進めようと、若者に起業のチャンスを与えることを目的に、社会起業家をめざす若者のためのビジネスプラン・コンペティション「edge（Entrance for Designing Global Entrepreneurship）」を企画したのがedge実行委員会委員長の田村太郎さんである。

「〝edge〟は、『グローバルな視野に立つ起業家をデザインする玄関口』という意味。若者たちが『社会起業家』へとつながる扉を開くきっかけやチャンスを、ビジネスプラン・コンペ

第1回edgeで優秀賞を受賞したNPO法人「み・らいず」は、障がい者の自立支援に取り組む。子どもたちがデザインした缶バッジやTシャツが人気

edge実行委員会

【連絡先】
〒530-0015
大阪市北区中崎西2-4-43　アルテビル梅田8階
学校法人山口学園本部ECC社会貢献センター内
TEL:06-6372-1474　FAX:06-6372-7044
E-mail:office@edgeweb.jp
URL:http://www.edgeweb.jp/

今回のナビゲーターである
田村太郎さん

ワークショップで与えられた課題を踏まえて、メンバーはプランを練り直してくる

ブラッシュアップワークショップでは、メンバー間で熱心な議論が交わされ、プランはどんどん洗練されていく

という仕組みを使って提供したいという『想い』を込めたネーミングです」と、田村さんは説明する。

「edge」の特徴のひとつは、企業などが行う通常のビジネスプラン・コンペとは違い、プランの完成度や実現性を高める機会を提供するという点。

「このブラッシュアップ・プロセスを通して、起業家とその起業家を支援するサポーターとのネットワークや他の社会起業家との出会いを生むことを狙っています。さらに、サポーター同士のコミュニティが生まれることも期待しています」

阪神・淡路大震災のボランティアをきっかけに、自らも起業して活動を展開してきた田村さんだが、「震災からすでに一一年。これまで自分たちにチャンスを与えてくれた人たちが、どんどん"おっさん"といわれる年代になっていく。次の世代への橋渡しに、そろそろ私ぐらいの年代が役割を果たす義務があると考えてedgeを始めました」。

起業に対するムーブメントを、一世代で終わらせずに継続することで、『誰でも起業できるチャンスがある社会づくり』の実現を目指しているという。「格差がある社会でも、チャンスがあれば、若者たちが希望を失うことはない」という田村さんの言葉どおり、「edge」をとおして自らの進む道を見つけた若者の数は確実に増えている。

（文責・CEL編集室）